

豊庄だより



第 683 号 2021 年 10 月 25 日

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

急に寒くなりました。秋はどこに行ったの？という感じです。こんな時はあったかい食べ物が欲しくなります。そこでおでんを食べることにしました。おいしい日本酒とあったかいおでん。つつい杯（さかずき）がすすみ、心も体もあったかくなり、そういえば学生の頃、秋が深まったちょうどこのころ、学園祭でおでんの店を出していたなあと思い出しました。

11 月中旬の土、日曜日が毎年 of 日程で、日が暮れるとかなり寒く、おでんとお酒（たしか樽酒を出していました）がよく売れました。仕込みから近くの料理屋の台所を借りて行いました。この料理屋さんは、大学の近くに昔からある学生相手の老舗（「エ克蘭」といいました）で、学生をととても大事にしてくれました。また、大学の先生もよく通っていたところでした（残念なことに、数年前、閉店しました。昔ながらの建物で、お客も減ってしまったのでしょう）。ここで前日から材料を買い出し、調理をしました。このおでん屋さんを出していたのは、私が属していたあるサークルでした。私が通っていた大学は、教養課程の 1 年半、教養部の先生が「G」というサークルを作り、学生と懇親を深める会にしていました（※今思えば、かなり激しい大学闘争があり、先生と学生の関係を修復する目的で作られたのではないかと思います。確かめてないのでわかりません。「G」という呼び名も、おそらく「グループ」の意味でしょうが、これも確かめてないのでわかりません）。それぞれの先生の名前を「G」の前に配し、入学式後、学内に加入呼びかけのポスターが張られ、新入生を募集していました。その中に、剣道をする「G」があるを見つけました。練習は週 1 回、月曜日の夕方でした。大学の体育会として活動している剣道部に入ることも考えましたが、1 年間の浪人生活で体も鈍（なま）っていることだし、週 1 回ぐらいがちょうどよいと判断し、加入することにしました。1 時間半くらいの練習時間。気に入りました。そして、もっと気に入ったのは、毎回、練習の後、教授の研究室で飲み会をすることでした。大学の食堂でビールを買い、研究室で飲みました。先生がいらっしゃる時であれば、学生だけで飲むこともありました。先生は飲むのが好きで、研究室で飲んだ後も、数人でそのまま駅の近くの飲み屋さんに行き、先生の行きつけの店で、おでん屋さんでした。こんなサークルのメンバー

が学園祭で店を出すのですから、店を出している時から、味見と称して飲み、交流を深めていました。

メンバーの構成は、学部も様々、学年も 1 年生から大学院生まで、年齢も様々。教授の専門は英語（講義を受けていた友人の話では、かなり難しい授業内容だったそうです）。しかし、先生は英語の話はほとんどされませんでした。一時期、熊本で生活されたこともあり、九州出身の私をととてもかわいがってくれました。亡くなられて 10 数年たちますが、先生をしのぶ会でいただいたレコード（先生の遺品です）を大事にしています。1940 年代のジャズのレコードです。



歯科検診（10 月 19 日）

レーベルはブルーノート。モダンジャズの前の歴史的な演奏ですが、おそらくアメリカで購入されたのでしょう。オリジナル版です（おそらく）。時々取り出し、聴いています。

テレビのニュースや新聞で、コロナ禍の学生生活の様子（オンライン授業やコンパなしの学生生活）に接するたびに、とても自分には耐えられない生活だと、昔の自分の学生時代を回想しながら、そう思っていました。